



たんけん通信

おもしろ科学たんけん工房

79号

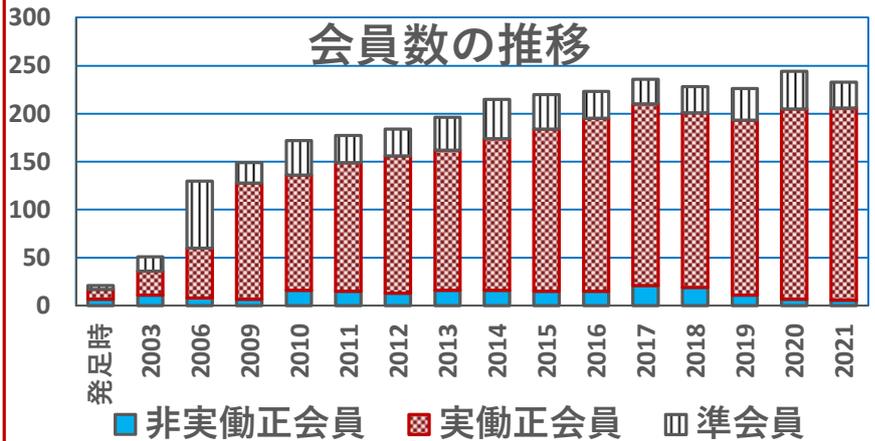
特定非営利活動法人
おもしろ科学たんけん工房
季刊：4月、7月、10月
1月の 各1日発行

創立20周年を迎えることができました

NPO 法人「おもしろ科学たんけん工房」は今年4月1日に 満20歳の誕生日を迎えました。その間、本当に多くの方々のご支援を頂きました。最近2年間は 新型コロナ感染拡大により、活動を大幅に制限されましたが、会場が使用できる限り、定員を縮小しながらも、子どもたちの科学体験の場を絶やさないように、できる限りの努力を重ねて参りました。

【感謝の集い】を計画

会場を提供下さった学校や施設・受講児童募集のチラシ配付に協力くださった小学校、そのほか様々な形でご支援頂いた方々には 心より感謝申し上げます。「感謝の集い」を5月8日(日)に計画しております。別途 個別にご案内差し上げました。ぜひご参集ください。



新型コロナウイルス感染拡大問題

8月下旬をピークに約1か月で急速に新規感染者減少の結果、第5波は 昨年年末には収束したものの、1月から3月にかけて新たな変異株=オミクロン株の猛威にさらされました。第6波の急拡大の結果1~3に月計画していたおもしろ科学体験塾の多くがまたまた中止に追い込まれました。

2月中旬以降ピークは過ぎたものの、感染者減少の度合いは遅々としており、特に心配なのは10歳未満や10代の感染者の割合が拡大していることです。現在のところ新年度4月~8月は、ほぼ計画通りに実施できることを期待しています。

おもしろ科学体験塾

4月~8月は 各会場とも

ほぼ正常な実施を期待

推進スタッフ養成研修も、藤沢地区で1回
横浜地区で2回 開催を予定しています。

創立20周年 特別企画

代表理事・副代表理事・自己紹介や地区紹介

おもしろ科学たんけん工房の運営を支える副代表理事の皆さんと代表理事に地区の紹介や自己紹介を執筆して頂きました。

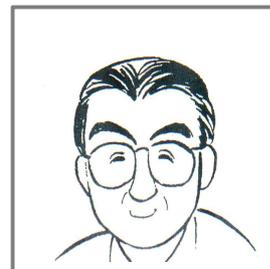
目次

- 1) 藤沢地区 代表 柴田憲男
「三つの教訓」 P2
- 2) 横浜 西地区代表 宮下盛汪
「私の趣味と西地区紹介」 P3
- 3) 横浜 東地区代表 島田祥生
「ますます楽しいたんけん工房に」 P4
- 4) 横浜北1地区 代表 石橋義夫
「定年後の私・・・三つの挑戦」 P5
- 5) 横浜北2地区 代表 鈴木明彦 (※)
「わが人生80年をふりかえって」 P6
- 6) 会員管理担当 古村哲夫
「かんじんなことは、目に見えない」 P7
- 7) 代表理事 兼事務局長 安田光一
「不作会の思い出とご縁」 P8

(※) 横浜北2地区代表は、2022年度から、土屋理事に交替します。

3 つ の 教 訓

副代表理事
藤沢地区代表 柴田憲男



1. 何事もやる気があれば何とかなる。(為せば成る) 無い物は自分で作ろう。
2. 先入観に縛られると新しいことができない。先入観を捨てて基本から考えよう。
3. 実績を上げると他人の見る目が変わる、何か1つでいいから得意分野を作ろう

以下に私の実体験をいろいろ書いたが、何かの参考にして頂ければ幸いです。自慢するつもりはありません。

■何もなかった少年時代 ないものは自分で作った

◆愛知県の北部山間部に生まれた私は、小学校2年の時に終戦を迎えた。直接の空襲は無かったが、戦争でいろいろなものを『供出』として取られ、何も無くなった。戦争は終わってもそれらは戻ってこない。集落には小さな雑貨店が1軒あるだけで、買えるものは少ない。必要なものは自分で作るしかない。

◆当時の履物は大人も子供もわらの草履か下駄が普通だった。3年生の時、わら草履がダメになったので夜なべで明日履いてゆく草履を作った。5年生の時、裏山で木を切ってきて下駄を作った。何とか出来たので、ついでに家族の分も作った。こうしてのこぎりやノミ、カンナなど使うことを覚えた。使えばすぐに切れなくなるから自分で研ぐしかない。カンナを研ぎ、のこぎりの目立てもやった。鶏小屋、本立て、勉強机、椅子、欲しいものは自分で作った。ペンキ塗り、左官、大工仕事、何でもやった。何とかあった。



■電気の道へ 新しいアイデアはなかなか受け入れられない

◆5歳まで電気は無かった。ローソクや石油ランプの生活だった。電気が来て、今で言えば10ワットくらいだったがとても明るいと思った。ラジオも買って『大本営発表』や『空襲警報発令』を聞いた。やがて終戦になり、電気に興味を持って、『ラジオ技術』などの雑誌を取って読んだ。いわゆるラジオ少年になっていった。もともと音楽が好きで合唱部に入っていたのだが、LPレコードが出たので大きな再生機を作り、高校の音楽室に運び込んでレコードコンサートを何度かやった。受験勉強はそっちのけで電気を楽しんだ。電気の会社に就職し開発部門に配属された。何度か移動があったがどこへ行ってもアイデア会議の座長になった。会社に入って3年目くらいだったと思うが、アメリカの会社から4トラックのテープレコーダーが発売された。そこで今で言うカラオケの提案をしたが、お前は馬鹿だと一蹴された。音楽には著作権というものがある、勝手なことは出来ないんだ、と。その後2年ほどして世の中にカラオケブームがやってきた。



■『シバタ針』の開発 結果を出して周りの見る目が変わった

◆会社に入っても音楽と電気、ステレオの技術開発が仕事になった。入社6年目頃に、より良い音を求めて4チャンネルレコードを開発することになった。今までにない超音波領域まで記録再生する必要がある。細かい説明は省くが、従来の技術ではレコードがすぐに傷んで使い物にならない。必要に迫られて開発したのが『シバタ針』である。高い周波数まで再生できる高性能で、レコードが痛まず、針も長持ちする、そんな構想を説明すると物知りの先輩がこう説明してくれた。「君ね、車のタイヤが柔らかくて減ってくれるから、硬い道路が傷まないんだよ。どちらも硬くて痛まないなどということは不可能なんだよ」と。テストが進みいよいよ商品化となり名前を付けることになった。すると例の先輩と課長が自分の頭文字を入れた3文字のS※△針としてはどうかと提案してきた。あんなに文句言っていたのに……。それを聞いた担当重役が『シバタ針』と決めてくれた。そして世界中に有名になった。それまでは若造が生意気にうるさいことを言う、と敬遠されていたのが、この後しばらくすると、「あの柴田さんが言うのだから間違いはないだろう」という風に変わってきた。私は何も変わっていないのに……。

先入観に縛られると新しいことはできない。先入観を捨てて基本から考える習慣をつけよう。



横浜西地区

会員25人と小規模だが、皆で協力し、永野塾、戸塚塾、踊場塾の3会場で科学体験塾を行っている。

副代表理事

宮下 盛汪(もりひろ)



私の趣味：50代になってから「洋ラン栽培」に熱中

洋ランは花形が一番進化していると言われるように、不思議な形と魅力を持っている。菊や桜のように点対称の花形が無く複雑な形をしている。どうしてこのような形に進化したのか、いつも感心している。

自宅に温室を備え、せっせと世話をした。日本の気候では難しいところがあり、冬は暖房、夏は風通しの良い屋外で遮光と手間暇かかるが、

開花させるのが楽しみだった。カトレア、デンドロビウム、ファレノプシス、パフィオペディルム、パンダ、オンシジューム、と種類ごとに栽培環境が違う。ストレスの多い年代だったが、彼らの世話をしている時は心も穏やかだった。世話をしながら個体差があるのを感じた。根や葉の変化を見ながら水やりを調整するなど、なかなか手間がかかる。お姫様のようなものかと一人で納得している。それにしても、ラン展で入賞するような立派な花を咲かせるのは難しい。「園芸」とは「芸術」の領域だとつくづく思う。



永野塾：横浜市立永野小学校(港南区)

通算 193回

明治25年(1892年)現在地に永野学校が創立され、尋常小学校、国民学校と変遷を繰り返し今年で130周年を迎える歴史ある学校。昭和40-50年代

に周辺の6校を分離させたマザー校。明治初期、勝海舟の部下だった平野玉城が下永谷に永谷学校を開くまでの経緯は郷土史のエピソードになっている。

当時の「永谷学校」と「野庭学校」が合併して、両校の名を一字ずつ取り永野学校になった。

校長室に勝海舟の直筆の額がある(写真)。学校の理解を頂き、科学体験塾を2004年から開催させてもらっている。



戸塚塾：フォーラム戸塚 ⇒ 戸塚地区センター 通算 216回

フォーラム戸塚を会場として2002年から開催していたが、2011年から横浜市戸塚地区センターに会場を変えて、共催している。戸塚地区センターはJR戸塚駅から徒歩圏内等、交通の便が良く、藤沢市、横須賀市や青葉区など遠方からも参加者がある。近くに柏尾川の桜並木があり、桜の名所として春は賑やか。



踊場塾：踊場地区センター

通算 9回

2020年から横浜市踊場地区センター(戸塚区)と共催で進めている。

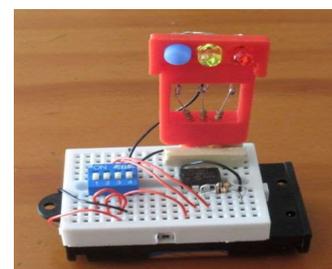
「踊場」という地名は、猫が夜な夜な集まって踊ったという伝説から来ている。

戸塚区に加えて隣の泉区からの参加者もあり認知度も上がってきた。



新しい試み：マイコンを使ったテーマ

科学技術が大きく変わっていく中で、「スマホでプログラミング」「マイコンで制御する信号機」など、マイコンを使ったテーマを増やしている。小学生にはまだ一般的テーマではないが、毎回真剣な顔が見られる。アシスタントのレベルも求められ、勉強をしている。これから、この種のテーマがさらに発展し、地域のレベルアップに一役貢献するのではないかと思う。



東地区のページ **ますます楽しい たんけん工房にしましょう!**

副代表理事・東地区代表
島田 祥生



2001年から通っている木工教室
孫の学習机を製作中

1. 「最新科学と工房」にテーマを進化させませんか!!

例えば・・・⇒⇒の先に思いを馳せてみるのは如何?

- * 静電気=静電気モーター、ハミルトンの羽根車⇒⇒
- * 再生可能エネルギー=ソーラーオルゴール、風力車⇒⇒
- * ロボット=すもうロボット⇒⇒
- * EV=ソーラーカー⇒⇒
- * 遺伝子科学=DNA⇒⇒
- * ITC=信号機(プログラム版)⇒⇒
- *⇒⇒



地球に帰還するハヤブサ2のカプセル

最近気に入った北原照久氏の言葉

ブリキのおもちゃ博物館館長

「開運!なんでも鑑定団」鑑定士

- ★ソウソウ(想像と創造)が若さの秘訣
- ★自分はいつもついている、と思え
- ★願いは、続ければ必ず実現する

2. いろいろあるよ。工夫が楽しい、ものづくりの手段

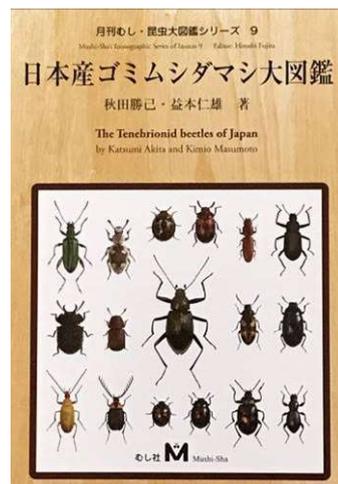
- 部品を正確に楽にたくさん作るためのために拵える道具を「治具(じぐ)」と言います。
 - 「治具」は、工夫のかたまり。治具作りを楽しんでいる方が結構おられますね。
 - この楽しさをみんなでシェアしたいのです。
- ★アイデア出しだけでも、如何でしょう。
みなさん! やってみませんか。
- かつて、20人程の仲間で、風力車の6枚の羽根をペットボトルで作るための、6等分のマーキングをする治具を、考え出したことがあります。
- 皆さん、なかなかの出来栄えて、全体交流会で披露したのを覚えています。



全体交流会に出展しました

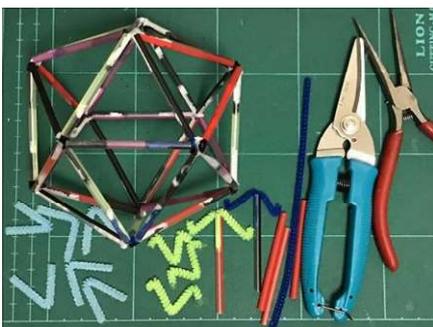
私のお宝 日本産ゴミムシダマシ大図鑑

「ゴミムシ」と聞いただけでもその道の人以外はぞっとしないでしょうが、その上をいく「ゴミムシダマシ」生息環境の違いがものすごい、地味なジャンルの甲虫。たった2名で日本産約460種を網羅した図鑑にまとめ上げたエネルギーに感服。とにかく、眺めるだけで癒されます。



3. 「Zoom de かんたん工作」で、ウテを磨きましょう!

自宅に居ながら、かんたん工作を楽しんでいる仲間に加わりませんか。百均等で手に入る身近な材料を使い、普通の工具で作れるものを選んでいきます。画面の中なので、直接手助けはできませんが、自分で工夫する「脳トレ」のいい機会。「近所の子もたちと、お友達になれた」、「今度のイベントで使わせてもらおう!」などの反響が。



百均のモールとストローを使った立体モジュール

指先と頭を使って、「青春」を長く続けて行きましょうよ!

「ちょっと苦手」など気にしないで、拵える姿を子どもたちに見せるのも、いいではありませんか。

今、熱くなっているもの

最近手に入れたカメラに、かつて愛用していたマクロ機能付ズームレンズを付けてみた。オールドレンズに新しい機能が息吹いたようで、数倍おもしろくなった。ピントと絞りは勿論手動で、その「マニュアル操作」も楽しい。

北1地区だより

定年後の私

副代表理事

北1地区代表 石橋 義夫



サラリーマン生活を60歳で卒業する時に、これからの長い時間をどのように過ごすかを考えました。3つのことをやることにしました。

1つ目は体力作り、2つ目は趣味を作る、3つ目は新しいことに挑戦すること。

■体力作りのためにウォーキング、マラソン

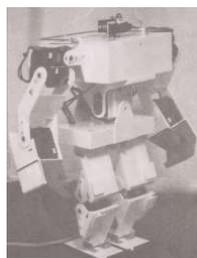
1つ目は、体力作りのためウォーキングを始めることにし、ウォーキングクラブに所属しました。このウォーキングは現在でも続いています。ウォーキングの仲間からマラソンに参加しないかと誘われ、マラソンも始めました。当初は長い距離は走れないと思っていましたが、練習を重ねていくとなんとか長い距離を走れるようになり、フルマラソンに参加しました。フルマラソンに9回参加し、すべて完走できました。この中には東京マラソン、湘南マラソン、霞ヶ浦マラソンも含まれていますが、現在は辞めています。



練習を続けることが大変だったのと、フルマラソンのブームが到来し、マラソンにエントリーすることが難しくなったためです。今当時を振り返ると、楽しい思い出でいっぱいです。また、日本の80歳代のフルマラソンのトップランナーが約4時間で走るのですが、そのトップランナー(当時85歳)に会場でお会いできたことは私の宝になりました。

■趣味はロボット作り

2つ目は、なんとなくロボットに興味があり、定年後ロボット作りをして過ごせば時間を忘れて没頭できるのではないかと思います。ロボット関係の書籍を調べていたときにロボットの本(*1)を見つけて、その本に添ってロボットを自作しました。このロボットは工房の全体交流会にも出品しました。このロボット作りを続けるには費用と時間が相当かかることと、ソフトウェアの基礎から応用への展開が難しいこともあり、続けられませんでした。この趣味は持ち続けたいと考えています。また、一人で工作するのは難しいので、同じような趣味を持った仲間を探したいと思って、工房に入会しました。工房での活動では、安い費用でおもしろい工作が沢山できることに感心しています。今ではその工作を楽しんでいます。



■新しいチャレンジ……ヨガ、太極拳、そして料理

3つ目は、いろいろなことに挑戦したいと思い、ヨガ教室と太極拳教室に通いはじめました。また、食育のセミナーにも参加しました。食育の参加メンバーから男の料理教室に誘われ参加しています。また、男の料理教室のメンバーからそば教室に誘われ、これも参加しております。また、そば教室のメンバーからパン教室に誘われ、これにも参加しています。人の縁は不思議なもので、退職後は退屈な日々なのかと思っていたのと違い、忙しい毎日を過ごしています。



まとめとして、子どもたちに対しては『コマ博士になろう』という本に次のような言葉がありました。「挑戦すること、新しいことを工夫する力(知恵)を子どもの時代に体験してもらいたいと思っています。簡単にできることより、『できないこと、むずかしいことのほうがおもしろい』と感じられるようになれば、人生はより楽しくなると思います」この言葉のように、いろいろなことを経験して頂きたいと思っています。

また、工房に対しては、ボランティア団体なので基盤は弱いと思いますので、少しずつ地道に活動し、会員の皆様が楽しく過ごせるような団体であつたらよいと考えています。

*1 吉野耕司著：『60日ですべてできる！二足歩行ロボット自作入門』

わが人生80年をふりかえって

副代表理事 北2地区代表
鈴木 明彦



1. 生い立ち

①幼少年時代；太平洋戦争開戦の年1941年(S16年)に生まれ、戦後満州(中国東北部)の牡丹江から1946年(S21年)6/1~6/20に中国葫蘆島、佐世保を経て、父の実家福島県会津に引き揚げ、幼少年時代を過ごす。めんこ、チャンバラ、ターザンごっこ、ベーゴマ等で遊ぶ。



満州から引き揚げ



小学6年生



高校3年生

②大学時代；親友7人との北海道一周旅行(20日間)が良き思い出。テント、米、飯盒を持参し青森まで各自ヒッチハイク。

③会社時代；三菱重工業、三菱自動車工業でバス・トラック用ディーゼルエンジン設計業務に従事。連日深夜まで仕事に専念し我が国の高度経済成長に貢献した。

④定年退職後；神奈川大学工学部機械工学科にて11年間「エンジン工学」の教鞭を執る。

2. 貴重な体験

(1) スイスアルプスの雄大な眺望に感動

1977年にバス・トラック技術調査の為、欧米の自動車・部品メーカーや研究所に出張。当時海外渡航は珍しかったので出発時には上司、同僚、家族が羽田空港に見送りに来てくれた。スイスのBBCが開発した新技術調査のため2週間滞在。

よく晴れた休日に登山列車でユングフラウヨッホ(高度3466m)に登る。眼下に雄大なアレッチ氷河を見ることができ感動の連続であった。

(2) 国交回復直後の中国訪問

日中平和友好条約(1978年8月田中首相と周恩来首相、同年10月23日に発効)発効直後に、中国からのトラック製造技術支援の要請に対応するため10人のチームを編成し出張。北京空港ではたくさんの人から日の丸の小旗を振って熱烈な歓迎を受けた。空港からは中国で最高級の乗用車红旗(車の内装は木製)に乗せられ、道路沿いには小旗を振る人々が連なりあたかも有名な人になったような心地であった。



当時の中国の人々は人民服と人民帽の姿で暗いイメージであった。夜には頻繁に停電があり、シャワーのお湯はすぐ水になってしまうなどインフラには不備が多かった。

技術打ち合わせでは、当時中国には電卓はなく計算はそろばんが主流であったので、私が関数電卓fx-17(カシオ計算機株式会社が1976年に発売)で計算するのを見て電卓のスゴ技に中国技術陣の驚きようは異常なほど大変なものであった。



アレッチ氷河



ユングフラウヨッホにて

3. 趣味

(1) 博物館、科学館見学；東京国立博物館、日本科学未来館など多くの施設を見学した。

(2) 旅行；国内では北は北海道利尻島、礼文島、南は石垣島、八重山諸島など数県を除きほぼ全権を旅行した。海外は中国(三国志ゆかりの成都、九寨溝、峨眉山)、オーストラリア、シンガポール、インド、台湾、ネパール、マレーシア、カンボジアを旅行(出張ではアメリカ、ロシア、中国、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア、スイスを訪問)

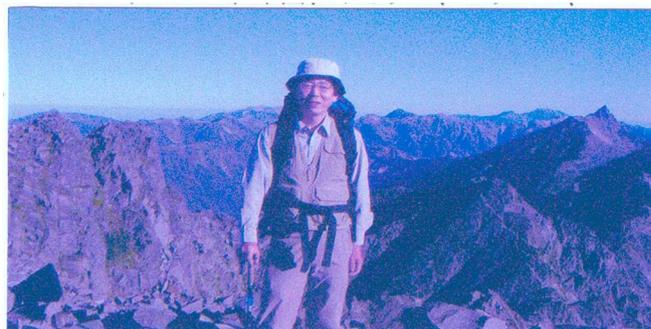
(3) 登山；北アルプスや南アルプスをはじめ、数々の山に登ったが、穂高連峰縦走が最も印象に残る登山。

(4) 映画；最も感動した映画

- ・二十四の瞳(壺井栄原作 高峰秀子主演)
- ・大地の子(山崎豊子原作 上川隆也主演)

(5) 読書；最も印象に残る書籍

- ・『物理学とは何だろうか』朝永振一郎著
- ・『平家物語』諸行無常、盛者必衰、平家一門の栄光と滅亡



かんじんなことは、目に見えない

副代表理事
北2地区 古村哲夫



◎敵基地攻撃能力

いきなり物騒な話で恐縮です。かつて仕事をしていたころ、防衛庁(当時)に収める装置も担当していて、隊員さんに「敵の基地を叩くのが最良の防衛ではないですか?」と持ち掛けて、「そんなことを口にしてはいけない。」とたしなめられたことがあります。当時は、日本の艦艇はもちろん輸送機たりとも国境を超えることなどあってはならないことでした。

今はどうだろう、首相が所信表明演説で、「いわゆる敵基地攻撃能力も含め、あらゆる選択肢を排除せず現実的に検討する」と強調していて、マスコミはそれをそのまま伝えるだけである。しかし、世間からはそれを批判する声も疑問を持って議論する声も聞こえて来ない。当時と安全保障環境が異なるとは言え、私はそれでよいのかとの思いに至っている。その攻撃が全面的な戦いの引金になるのではないかと。

◎半藤一利さん

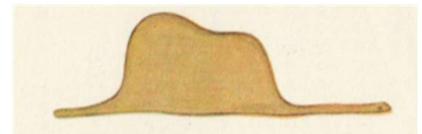
コロナ禍の巣ごもりを利用して、1年前に亡くなった半藤一利さんの近代史に関する本を何冊か読んでみた。日露戦争に勝利した日本は、満州鉄道を譲り受け、遼東半島先端も手に入れた。それで満足すれば良かったが、柳条湖事件、盧溝橋事件を引き起こし、続けて直ぐに片が付くとの誤算から、中国全土に戦線を広げ泥沼状態となり兵站が続かなくなった。それを補う形で、大東亜戦争、太平洋戦争へと突き進んだ。

何処かで踏み止まることができなかったのか。そして、日本兵は、戦闘による死より餓死が大半であったという悲惨な形で敗戦を迎えた。なぜ、国民は疑問を持ち声を上げなかったのか、上げられなかったのか。現実が隠れた背景が見えなかったのだ。この教訓は、今に生きているのだろうか。

◎『なぜ?』

企業で航空機に関する仕事をしていたので、子ども達に航空機に興味を持ってもらいたいのと、飛行機やヘリコプターが空を飛んでいるのが何時でも見え、また、家族で旅客機に乗って旅をする、そんな時、空気より重たい飛行機が『なぜ?』空を飛べるのか疑問を持って考えて欲しいとの思いで、おもしろ科学に参加した。

この『なぜ?』を子ども達に考えてもらいたい気持ちは他のテーマを担当するおもしろ科学スタッフ共通の願いであると思います。



◎星の王子さま

フランスの作家であり飛行機のパイロットでもあるサン=テグジュペリの『星の王子さま』に王子とキツネの出会い中で「心で見なくちゃ、かんじんなことは、目に見えないよ」という名言があります。心で見するには、何ごとにも『なぜ?』と疑問を持って一つ掘り下げて考えることです。子ども達がこの習慣を身に着けて、大人になったら現実の背景にあるものを見定めて欲しい。そして、過去の悲惨な過ちを繰り返さないように。

半藤さんは、「昭和の歴史というのはなんと多くの教訓を私達に与えてくれるかがわかる」しかし「しっかりと見なければ見えない」と述べている。『なぜ?』は、その為の小さな第一歩。



私は、科学体験塾の主任をするのが、しんどい歳になりましたが、テーマを絞ってもう少し頑張ります。

不作会の思い出とご縁

代表理事 安田光一



◆いつも最低学年で、下級生なし

私は昭和8年(1933年)の生まれで、昨年12月で満88歳=いわゆる米寿を迎えました。物心ついた小学生時代に太平洋戦争を経験した最後の世代といっても良いでしょう。

昭和20年8月の終戦時は、国民学校(今の小学校)6年生でした。翌年昭和21年の春、私は受験を経て旧制中学校に入学し、そのまま新制中学校に切り替わりました、更にそのまま今度は新制高校に昇格しました。結果、我々の学年は下に続く生徒がその後2年間全く入学して来ていません。いつも最低学年に置かれたまま、入学試験なしに新制高校生となりました。その1年後高校2年生になってようやく1年生が入ってきて、初めて我々は上級生の気分を味わうことができたというわけです。



◆30年来の不作と言われて……

結局中学3年間と高校3年間併せて6年間も同じ校舎、同じ運動場で学びかつ遊んだわけで、公立学校としては特殊な学年でした。常に最低学年……つまり末っ子で4年間も過ごしたためか、なかなか大人になれなかったということもあったのでしょうか、当時の教員たちからは「お前たちは**30年来の不作**だ」と揶揄されていました。しかし、この30年来の不作のわが学年は、戦時中の軍国教育から解放され、明るい民主主義の洗礼を受けて、とても自由で、活発で、のびのびと中学～高校生活を送ったと思います。

最大の思い出は高校1年の時、野球部が甲子園に初出場でいきなり初優勝という快挙をなし遂げた事です。しかもこの時の選手二人がまさに私のクラスにいたのですから、格別のことでした。

◆「不作会」と名付けたユーモア

昭和27年に高校を卒業すると、同期の卒業生が集まり同期会を結成しました。いつ誰が言い出したか定かではありませんが、同期会の通称はなんと「不作会」です。教員たちから揶揄された「30年来の不作」を逆手にとったのユーモラスな名づけでした。

私自身は、10歳の時に父親を亡くし母子家庭であったため、中学生の頃からアルバイトをするため、必ずしものびのびとして豊かな中学～高校～大学生活を送ることはできませんでしたが、大学卒業後社会人になってからは、この年に一度の同期会(不作会)の会合を楽しみにして、よく出席していました。

◆工房の今日があるのは……

おもしろ科学たんけん工房を立ち上げたころ、この不作会の会合で工房の目的や趣旨を訴えたところ、多くの支持が集まりました。工房立上げ時に中心になった相棒の相川正光理事(現監事)も不作会の仲間でした。相川さんも工房のPRを積極的にしてくれ、工房初期の約10年間に、不作会の仲間からは寄附や賛助会費の形で大いに支援を受けました。人数でいうと約20名位はいたと思います。その多くは他界しましたが、今でも支援を続けてくれている不作会の仲間が安田・相川以外に4名います。ほんとうにありがたいことです。そして、更に決定的な幸運に恵まれました。それは、創立時から15年にわたって工房の会計の責任者として尽くしてくれた宮治資雄さんの存在です。宮治さんなしには、今の工房は存在しないと言っても過言ではないのです。残念なことに2年前に亡くなってしまいましたが、20年前、彼は不作会の会計担当をしていました。私は工房の会計担当をボランティアでやってほしいと頼み込み、宮治さんは快く引き受けてくれたのです。このことは10周年記念誌にも書きました。

